

ECC コンピュータ専門学校 学校関係者評価委員会 報告書

学校法人山口学園 ECC コンピュータ専門学校 学校関係者評価委員会は、2026 年 8 月 28 日に 2025 年度自己点検評価報告書（高等課程）に基づいて学校関係者評価委員会を開催しましたので以下のとおり報告いたします。

2026 年 9 月 1 日

学 校 法 人 山 口 学 園
ECC コンピュータ専門学校
学 校 関 係 者 評 価 委 員 会

- 1 開催日時：2026 年 8 月 28 日（金）18:30～20:00
- 2 場 所：ECC コンピュータ専門学校（2301 教室）
- 3 参加者：
学校関係者評価委員（「ECC コンピュータ専門学校 学校評価実施規定」選出区分）

【関連業界等関係者「同第 12 条第 1 項（1）」】

株式会社 BeForward 弓手 弦 様（委員長）
株式会社カプコン 松江 一樹 様

【卒業生「第 12 条第 1 項（2）」】（高等課程前身の高等部卒業生）

森田 真生 様

【保護者または地域関係者「第 12 条第 1 項（3）」】

保護者：中西 美穂 様

地域関係者：済美地域社会福祉協議会 中上 隆雄 様 ご都合により欠席

【その他校長が必要と認める者「第 12 条第 1 項（4）」】

中学校校長 中達 和枝 様

【同席者】

納谷 新治 （ECC コンピュータ専門学校 学校長）
伊澤 幸徳 （ECC コンピュータ専門学校 副校長・教務課責任者）
池田 宗人 （ECC コンピュータ専門学校キャリアセンター責任者）
阪本 勇輔 （ECC コンピュータ専門学校 広報課）
新古 功二 （ECC コンピュータ専門学校 教務課副責任者）
北口 愛梨 （ECC コンピュータ専門学校 教務課副責任者）
久本 将弘 （ECC コンピュータ専門学校 教務課）
青木 雄大 （ECC コンピュータ専門学校 教務課）【書記】

2025 年度事業報告書（高等課程）、高等課程の説明、自己点検評価報告書に基づき概要説明、参加委員様からの意見・質疑応答という形で議事を進行。

① 学校関係者評価委員会開催にあたってのご挨拶（納谷）

高等部より設立して 6 年で初めての学校関係者評価委員会開催。高等部は当初 3 名でスタート、その 1 期生の卒業生が森田様。その後大阪府の認可を受け、現在 155 名の生徒在籍する高等課程となった。高専接続による内部進学、長期的育成によるトップクリエイターとなるような専門人材の育成を目指している。卒業生は大手ゲーム企業への就職を実現しており、高専接続から就職を目指すロールモデルとなっている。

② 高等課程の説明と質疑応答：北口・久本

「好きを本気で学ぶ学校」をスローガンに、高等課程と ECC 学園高校との W スクール式を採用、高校卒業資格も取得可能。中学校の段階からゲーム・CG・IT 業界のみに進路を絞ることに不安を感じる保護者や大学進学など高校卒業時に再度進路選択をすることも視野に入れる保護者にも配慮したコース設計としている。大阪府認可の高等課程であるため、国や府の高校無償化の対象校となっており、授業料負担も軽減されている。

高等課程の運営方針として「学校に来ることが楽しい、と思える環境づくり」を掲げている。その一環として、ハイスペック PC の貸与による学習環境の整備や企業連携授業によるプロからの指導機会の提供など、楽しみながらもしっかり学ぶ環境を整えている。

さらに、高校生段階からの人間力、社会人基礎力の養成にも力を入れており、3 年間の一貫したキャリア教育プログラムとして実施している。生徒の見守り体制にも注力しており、Teamsを使った生徒コミュニケーションや保護者会・日々の保護者連絡など生徒を取り巻く関係者が多層的に見守る仕組みを構築している。

結果として、一人ひとりの生徒が学びを深めると共に、外部コンテストであるゲームクリエイター甲子園 U-18 2024 で 2 位、2025 で 1 位など、着実に成果が出てきている。

・質疑、及び感想・ご意見

中途委員：中学生の段階で夢はあっても、その職業に就けるか、モチベーションが維持できるか疑問だったが、途中でコース変更できるのは良い。もっと子どもたちに周知できたら良いのではないか。今後さらに中学生・保護者への認知向上を図ることで、より多くの生徒の進路選択肢になるのではないか

不登校経験の生徒やコミュニケーションスキルが発達段階の生徒にとって、キャリア教育の授業の実施は適切だと感じる。クラスの規模はどの程度か。（【回答：北口】

1 クラス 20 名程度）

生徒数の増加に合わせて、一人ひとりに寄り添う支援体制のさらなる充実が期待される。

松江委員：中学校で登校に困難があった生徒が多いという点に驚いた。多様な学習歴を持つ生徒が多く在籍しているが、ゲームが好きということと関係性はあるのか。登校が困難な生徒を対象にしていたなどはあるか。（【回答】納谷・北口：もともとはそういった意図ではなかった。業界的な特徴としてゲーム作りを学ぶということの早期化に合わせた結果が現在の結果。ただし、ゲーム等の媒体そのものが、家に居てやる、ということには親和性はあると考えているが、学校として、そういった投稿が困難といった履歴を持つ生徒を特別視しているわけではない。通信制高校だけが集まる合同説明会にも出展しているが、「自分の好きなことを学べる学校を探しに行こう」というコンセプトの下で開催されており、その中で本校に興味を持っていただいている）

中西委員：中学校があまり楽しくなかった、という経緯から、楽しい学校って何だろうと考えたときに ECC コンピュータ専門学校高等課程だった。結果、現在は無遅刻無欠席で進学できている。

弓手委員：「学校に来ることが楽しい」と思える環境づくりをする、という目標が素晴らしい。自身も行きたくなる会社・事務所を目指して運営を行っており、その経験からも、そのように感じる。学年ごとのクラス数はどの程度か。（【回答・納谷】1 学年 2～3 クラス。募集定員は年々増加している。）

森田委員：（高等課程前身の）ECC コンピュータ専門学校高等部は、ゲーム業界就職をしっかりと目指せると感じて入学した。もともとは背景デザイナーを目指していたが、体操をやっていた経験から、モーションデザイナーを目指している。

③ 2025 年度自己点検評価報告書の説明と質疑応答：納谷・伊澤・池田・阪本・新古・北口・久本

2025 年度自己点検評価報告書に基づき、各観点の自己点検・評価状況を報告（自己点検評価報告書記載事項のため、個別詳細はそちらを参照のこと）。

2025 年度自己点検評価報告書の説明（概要）

大項目 1（教育理念・目的・目標）：学校理念、教育目的、教育目標、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーの設定状況、及び生徒、保護者、外部への公開状況を説明。

大項目 2（教育課程、教育の実施、学修成果）：教育課程の編成方針、及び具体的な授業の運営状況、単位取得の要件などを説明。学修成果の実例として、外部コンテストの入賞状況を紹介。

大項目 3（生徒の受入れ生徒支援）：入学希望者の受け入れ方針を説明。多様なバックグラウンドを持つ生徒が入学していることから、カウンセラーの常駐や相談室・保健室連携、併修先・学園高校連携など、生徒の学校生活を支援する取り組みを紹介。

大項目 4（教育実施組織・教員）：高等課程担当教員の採用方針を説明。特に高等課程世代を担当する教員として、専門的知見に加えて、教員免許や指導経験なども重視している旨を紹介。

大項目 5（教育環境）：学内の施設設備の整備状況を説明。授業上必要となるスペックを備えた PC を一人 1 台無償貸与している点を紹介。安全対策については、法律に則り適切に対応していると共に、避難訓練等による生徒自身の意識向上を図っていることを紹介。

大項目 6（教育活動の基盤と改善・向上の取組）：財政状況は健全であり、法律に則り適切に手続きを行い、透明性確保のための公開を行っている点を説明。校長を最高責任者とし、高等課程の入り口から出口までを一気通貫で管理監督するエンロールマネジメント責任者を配置するなど組織的な管理の下で運営。完成年度である令和 8 年度をスタートとして、継続的に各種学校評価を行っていく旨を説明。高等課程の取組をより社会に認知・理解いただけるように、ニュース発信などの情報公開を行っている点を紹介。

自己点検評価報告書を説明した上で、本校よりそれぞれの委員のお立場から本校が課題と感じている点について、ご意見をいただく形で議事を進行。

質問：業界就職を目指すにあたり、逆算した内容で必要な技術についてお伺いしたい。

【回答：弓手委員】人間力であると考え。I T 知識を知ること、『使う』知識は必要。さらに、その知識を使う人間はどうか？ということが重要になってくる。人間力、考える力、協調性、チームワーク、IT を使える人間かどうか、報連相がしっかりできるか、モラルが身についているかなどが重要。

【回答：松江委員】企画マネージャーの立場として、プロジェクトの行程や全体像をつかんでいく人が使える人材になってくる。技術や知識だけではなく、自らの考えを持って主体的に行動できる人材になってほしい。入学時当初に知識、考え方を身につけて、習慣化できると良いのではないか。次の段階として、このゲームは何が面白いのか、など、常に客観視して、ゲームのことを考えることを習慣化できると非常に良い。

質問：中学校の現場から、高等課程へ期待することについてお伺いしたい。

【回答：中達委員】生徒ケアの部分が大きい。学生相談室の心理カウンセラーが月曜～金曜まで常駐しているのは素晴らしい。保護者にとっても安心材料の一つになるのではないかな。ニーズもある、ぜひ継続してほしい。

質問：在校生保護者の視点から、生徒支援体制へのご意見をお伺いしたい。

【回答：中西委員】自分の思いを伝える、というのがまだ成長途上や苦手な子どもがすごく多いと思う。その意味で、伝える勉強をする場としても、学生相談室はそういった学びの場所になるのではないかな。相談するスキル、他者とのコミュニケーションスキルを上げるためにも使してほしい。

質問：（高等課程前身の高等部卒業生として）在学中に役立った学びについてご意見をお伺いしたい。また、後輩へのアドバイスも頂戴したい。

【回答：森田委員】「ロングホームルーム（現キャリア教育）」が良かった。コミュニケーションをとる機会も多く、敬語の使い方はこの時に教えてもらっていて役立った。また、デッサンの授業は基礎力が身についたと感じる。後輩にアドバイスとしては、ゲームや遊びなど高校時代にしかできないことが沢山ある。日常でも、例えば、映画を見る時、カメラワーク等からゲームやアニメーションの視点を学ぶことができると思うので、日々も気付きを大切に。

④ 全体総括：納谷

今回頂いたご意見を来年度のカリキュラムや今後の活動に活かしていく。

初開催ということもあり、高等課程の教育内容や運営状況について理解を深めていただく機会となりました。次回以降、より具体的なご意見を頂けるように会議を進めて参ります。

今後の開催予定：2026 年度第 2 回学校関係者評価委員会は、令和 9 年 2 月末を予定。

以上